



# 森のなかま

2021年 1月号

NO. 151 (継続296号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 今年も健康で元気な一年を過ごして行きましょう 理事長 久保 重明

いつもの年ですと「明けましておめでとうございます」で始まるのがこれまでの習いでした。しかし新型コロナウイルス禍が消えた訳ではなく、まずは慎重に、慎重にスタートしましょう。

一昨年11月30日に16期生を迎え、総勢311名になりました。1月初めには安全を誓う新年の集いを行い、2月10日には認定NPOの許可があり、財務管理の改善、事務作業の効率化を図るため専従職員2名の採用も進めました。

この辺までは順調な滑り出しの年のようですが、この時既に海外の各国では新型コロナ騒ぎが起きておりました。2月3日豪華客船ダイヤモンド・プリンセスが横浜港に入港して新型コロナウイルス患者の情報とその対応の様子がテレビで放映され、その画面にくぎ付けになりました。

そうこうしている内に（公財）かながわトラストみどり財団から4月9日から8月末までの県の事業の見直しが行われ、①ボランティア実践活動事業（緑の祭典、県民参加の森づくり等）の中止、②森林インストラクター事業（派遣事業、ブラッシュアップや研修、17期生森林インストラクター養成講座等）の中止、さらに③各部会や事業部会の活動は個別対応となり、内部での混乱と外部との調整で一段落するまで多少時間を要しました。また会の機関誌「森のなかま」は活動がほとんど中止になったので9月まで休刊となりました。期待していた17期生の養成講座が中止になり、今年も開催できるか難しい状況にあります。

9月の活動再開に当たっては、8月中旬以降は新型コロナウイルス予防のガイドライン作りや予防器具の整備に万全を記すことに終始しました。再開スタートすると小学校の派遣要請依頼が極めて多く、担当者は高齢者が比較的多いため人選に苦労されております。

コロナ騒ぎの始まる前からスケジュールが決まり、再開後の「県民参加の森林づくり」についてはメンバーの参加可否から始まり、既に活動したものもあります。森林再生パートナーの方は民間会社や団体の方々が多く、まだ目立った動きはありません。

今年は理事改選の年で、昨年12月1日から今年1月4日まで理事立候補を受け付けております。私が理事長を拝命してから今度の総会で8年、この間いろいろなことがありました。皆様のおかげで何とか乗切り今日までやってこられました。しかしこの辺が潮時で、この選挙を機に新たな理事の皆様でマンネリ化した面を一掃してかながわ森林インストラクターの会をなお一層発展の方向に導いて頂きたいと思っております。

今年度もあと3ヶ月を残すのみとなりました。やっと治療薬も開発され試験投与も始まる段階になりましたが、まだまだ油断せず慎重に活動を始めましょう。本当に新型コロナウイルス禍で昨年くらい一年が短く感じた年はありませんでした。

## ＜森林部会＞ 除伐研修会

日時： 2020年11月15日(土) 9:00～15:00 晴れ  
 場所： 伊勢原市三ノ宮 ひじりの森 里山保全活動エリア  
 講師： 森林部会 小野⑦、大橋⑪、北村⑬  
 スタッフ： 鈴木⑭、竹内⑮、補)滝澤⑤、部)岩田⑭  
 研修生： 13名

(記 池田 修⑯ 写真 鈴木 淳⑭)

穏やかな日差しの中、晴天に恵まれひじりの森に到着すると、夜露で湿った落葉から早速ヒルの歓迎を受けました。ヒル避け対策をして準備体操を終え3班に分かれて研修がはじまりました。

午前は除伐の実習、急傾斜地のため足場が悪く滑りやすいなかで、近接作業、上下作業に注意し、一般参加者が気を付けなければならないポイントを考えながら作業を行いました。

昼食後は講師の皆さんが実演しながら倍力システムを二倍・三倍・四倍と順を追って教えていただき交替でロープを引いてその違いを体験しました。その後、研修参加者が協力してロープ、滑車、スリングを組み合わせることで三倍力までのシステムを作り上げる実習を行いました。中学で習ったはずの動滑車の働きや、システムの組み方、プルーシックの結び方等に悪戦苦闘しながらなんとか組み上げました。どのような理屈で成り立っているのかを一般参加者に説明できるように習熟し、いつでも使える様に練習しなければと思いました。

さらに研修は続き、ナタを使った杭作りの実習を行います。ナタには片刃と両刃のものがあり、それぞれの特性やナタの危険性を学び、一人ずつ杭を作成します。その杭をロープで二人で支えカケヤで斜面に打ち込みます。なかなかの力仕事ですが無事ケガも無く終了し、充実した一日の研修を終えました。

学んだ事を自分のスキルとしていくために繰り返し練習して、安全で確実な技術を身に付け、人に伝えることが出来るようになっていければと思います。

講師及び参加者一覧

数字は期

1班 小野幸広	7	2班 大橋聡	11	3班 北村貢	13
宮下 修一	10	星野 澄佳	13	水野 安則	14
大原 正志	13	末原 興一	15	飛田 尚弥	15
原田 明	16	大友 博道	16	田中 嵩大	16
中澤 靖彦	16	池田 修	16	岡村 寛	16
大森 善雄	16				



除伐研修



3倍力



## 活動短信

今回の掲載はR2年11月2日-11月30日分です。  
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 1月(睦月)(旧暦12月師走)の

#### 二十四節気と七十二候

**小寒** 1/6頃

セリが育ち、キジが鳴き始めるころ

**大寒** 1/20頃

フキノトウが出、沢の氷が厚く張る

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

#### ◆ 活動団体・活動名 等

- 日** 日付(できれば時間と天気も)
- 場** 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
- 参** 参加者 人数
- 県** 例 神奈川県 環境農政局 緑政部  
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
- 財(公財)**かながわトラストみどり財団、**看** 看護師
- スタッフ** 例 小田原市森林組合XX様  
例 川崎市公園緑地協会・XX様
- イ** インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠  
以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください  
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)  
\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

#### ◆ 横浜市立茅ヶ崎小学校・5年 林業体験学習『間伐体験』

- 日** 令和2年11月10日(火)9:20~14:30 晴のち曇
- 場** 県立21世紀の森・風切り水源林
- 参** 144名(大人8名 子供136名)
- 財** 豊丸 課長様、内田様
- スタッフ** 21世紀の森 確井所長様 辰巳様 飯田様
- イ** L牧石⑭ 佐藤⑤ 滝澤⑤ 小野⑦ 小沢⑨  
松山⑩ 松本⑪ 松永⑪ 西出⑫ 古館⑬  
松石⑬ 小松⑭ 小林⑯

茅ヶ崎小学校5年生(136人) バス6台で21世紀の森駐車場に到着、1班から12班まで各班10名~13名の構成だが生徒数が多い為、A(1班~6班) B(7班~12班)の2グループに分けて実施された。途中でヒノキの香りが気持ち良いと生徒たち、間伐場所まで迷わない様に標識が随所に掲示してあり安心の配慮が施されていた。本日は間伐後、枝払い、玉切



り、コースターづくりまで行う予定。コースターを作る為に各丸太に2/3まで切り口を切った続きを各自に仕上げさせて頂く工程を施し、終了時間までに作成した。コースターを用意された名前のビニール袋に入れて、楽しそうに持って帰られたのを見てインストラクターの疲れも吹き飛んだ。昼食後は21世紀の森周辺で各班に分かれ自然観察を実施。運動広場から「どんぐりコース」を通り森林ふれあいセンターの間のコナラやアラカシなどを観察行った。途中コナラの幹の穴



からブクブクと泡を吹いているのを一人の生徒が見つけたのでカシノガキクイムシを発見したら枯れの説明をしたところ、森林に関心がある子供たちがノートを取り出し次々に質問があった。

(記 小林 照夫⑯ 写真 牧石 稔⑭)

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載は2月号の予定です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 平塚市立大原小学校  
環境・エネルギー学校派遣事業  
～かながわ環境教室～  
「森が『緑のダム』になることがわかる  
実験」

日 令和2年11月2日(月)12:00～15:30 曇り  
場 平塚市大原 1-14 大原小学校  
参 4年生20名および担任教師1名  
イ L井出①、高橋③、森本⑤、星野⑬

＜実験の方法＞

土だけの箱(A)と植物が茂った箱(B)に、じょうろで同じ量の水をかけさせ、それぞれの箱の表面から流れ出た水と、土の中に浸み込んでから流れ出た水が、計量バケツに貯まるのを観察させる。



＜実験結果＞

- ① 植物が茂った箱(森がある)の方が、ない方に比べて約 3.5 倍の水を貯める。
  - ② 土だけの箱(森がない)の表面から流れ出る水は茶色く濁っている。
  - ③ 植物が茂った箱(森がある)の地中に浸み込んでから流れ出る水は透き通ってきれい。
- 森があることで、降った雨水の多くが浸み込んで土の中に貯めこまれ、その水がきれいな水になって徐々に流れ出るのを目の当たりにすることで、森の「緑のダム」としての働きが実感できたと思います。

＜解説＞

森林のはたらき、森林の手入れ、現状の森林の問題点と守る取り組み、水源の森などについて解説を行いました。また、高橋インストラクター(学校の教科書にボランティアとしての話が掲載されています)から、砂漠の国と日本との比較で、日本の森のすばらしさを解説してもらいました。

(記・写真 井出 恒夫 ①)

◆ 横浜市立下野庭小学校  
環境・エネルギー学校派遣事業  
～かながわ環境教室～  
「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和2年11月10日(火)14:00～16:00 晴れ  
場 横浜市港南区野庭町 602 下野庭小学校  
参 環境委員会の5・6年生 18名、教師2名  
イ L井出①、堀江④、星野⑬

この学校では絶滅危惧種に指定されている野生メダカを飼育しています。授業では、ビオトープの生き物調査・植生調査を行い、ビオトープの維持管理の進め方について解説を行いました。

- ① 植生調査:浮葉植物のトチカガミが越冬のため枯れ、周囲の樹木からの落葉も多い。水質を維持するために落葉の除去を指示しました。



- ② 採取:手網(タモ網)で、メダカやヤゴなどの生き物を採取。また、プランクトンネットでプランクトンを採取しました。
- ③ 観察:網で採取した生き物は白バットに移して抽出し、詳しく観察しました。またプランクトンネットで採取したミジンコなどは、顕微鏡でPCに映し出し観察しました。
- ④ 解説:メダカの生態、生態系(生き物のつながり)、野生のメダカが減少した理由、ビオトープの維持管理方法(植物の管理、水の管理等)などについて解説しました。

今回の対象は環境委員会の5・6年生ということで関心も深く、メダカのことやビオトープの維持管理について理解が深まったと思います。

(記・写真 井出 恒夫 ①)



## ◆ 横浜市立岡津小学校 愛川体験学習（間伐体験）

**日** 令和2年11月19日（木） 12:15～15:00 晴れ  
**場** 相模原市緑区 長竹承継分収林  
**参** 先生6名、児童89名、計95名  
**財** 豊丸課長、内田様  
**イ** L西出⑫、柏倉④、佐藤⑤、滝澤⑤、小野⑦、久保⑧、吉田⑩、松本⑩、牧石⑭、竹内⑮

11月も半ばを過ぎたというのに夏日に迫るポカポカ陽気で、みんなで汗をかきながら力を合わせて、樹高7m程のヒノキを間伐して、枝払い、玉切りの後、一人ずつ、マイ・コースターを作って、今日のご褒美に持ち帰りました。みなさん、コースターを部屋に飾って、しばらくは香ばしい香りを楽しめると思います

正午過ぎ、子供達が葦尾根ふれあい広場に到着、道具置き場へ移動して、ヘルメットなどを装着してから、森の中を10分程歩いて現場に向かいました。作業開始前に、森の学習（森の働き、間伐の意義）をして、インストラクターの指示の下、作業を開始しました。まず、倒す木を選木して、ロープを掛け、いよいよ大鋸を使って木に受け口、追い口を入れます。子供達は初めは思う様に大鋸が引けませんが、その内、上手に使えるようになり、伐倒の準備が整ったら、みんなで力を合わせてロープを引きます。大きな音と地響きがして木が倒れると歓声が上がりました。森が少し明るくなり、下草、低木の成長を促して、森の機能（保水機能など）が改善されました。その後、コースター作りを行って、楽しい思い出と共に森を後にしました。（記 西出 健一⑫）

## ◆ 横浜市立高田東小学校 間伐体験

**日** 令和2年11月20日（金） 晴れ  
**場** 相模原市緑区 長竹継承分収林  
**参** 先生5名、児童53名、計58名  
**財** 内田様 古舘様  
**イ** L松本⑪ 小沢⑨ 松山⑩ 西出⑫ 星野⑬ 牧石⑭ 中澤⑯

11月とは思えない暖かい風の吹く中、高田東小の皆さんをお迎えしました。30分遅れのご到着、どこまで作業ができるかご相談です。

皆さんの身支度の様子を確認しながら、道具場

への道中、作業の流れを確認。入山準備では「行きと帰り、道具の数が変わらないように」と。紅葉が山々にある中、作業場へ進みます。

今日の目標は、①自然と親しむ、②安全に、③仲間との時間を大切に。選木をし、受け口、追い口を切り進めます。なかなか鋸を真直ぐに使えず、真剣な表情。ロープを引く空間の枝整理を率先する児童さんもいました。

さて、引き倒しの時間です。はじめは、引く姿勢ができず、うまく引けません。少しスタンスを取り直し、「せーの！」掛かり木もかわし良い方向へ倒れました。弦がうまく効いたようです。皆で見えます。枝払いをして、下山へ。

帰り道、光が入り下草の生えている現場を見ました。そして地がむき出しになっている空間と下草のある空間の違いについて、皆さんと考えました。

「スゴイ」「メキメキっていった」「達成感」「楽しい」「引っ張る時に、ちゃんと倒れたから安心した」「カマキリいた」という声が聞かれました。

下層植生が回復すると、生き物のすみかとなります。生物多様性の話なども合わせて、もう少し丁寧にご指導させていただきたかったです。学校関係の皆様にはあと30分早めのお越しをお願いします。（記 星野 澄佳⑬）

## ◆ 第14回 県民参加の森づくり（植栽）

**日** 令和2年11月21日（土）晴れ  
**場** 箱根町畑宿  
**参** 44名  
**財** 豊丸様 大木様 寺本様  
**看** 青木様  
**スタッフ** 小田原市森林組合 高橋様、箱根町（久保様、遠藤様、山崎様）

**イ** L大澤⑩ 柏倉④ 渡部⑦ 齋藤⑧ 湯浅⑪ 山下⑪ 真貝⑪ 黒川⑭ 小松⑭ 野村⑭ 小野⑮ 末原⑮ 西村⑮ 大友⑯ 小林⑯ 堀口⑯

旧道を登って甘酒茶屋を過ぎて間もなく、お玉が池の西側、東南向き斜面の町有林にヤマザクラ、ヤマボウシ、ヒメシャラ、イロハモミジ各200本計800本の落葉広葉樹の植栽を一般参加44名にて実施となった。今回は根巻き苗、ポット苗、コンテナ苗の3種類を使用した。なお、近日中に鹿

防御ネットを掛ける時に紐を解く手間をなくすため、苗を支柱に結びつける工程を省いたことと、班を越えての協力もあり作業能率は極めて高いものとなった。

新型コロナ対策のため、ヘルメットにマスク及びフェイスシールドを着用しての作業は慣れないものであったが、青空の下、暖かい陽射しが差し込む中で皆気持ち良く活動することができた。

今回の植栽場所が20年後、30年後に紅葉の森の名所になることを思い浮かべながらこの地を後にした。  
(記 小野 雅一⑮)

### ◆ 横浜市立東山田小学校 社会科～間伐体験

**日** 令和2年11月24日(火) 10時～12時 曇り  
**場** 相模原市緑区 長竹承継分収林  
**参** 先生6名、児童90名、計96名  
**財** 内田様、古舘様  
**イ** L 西出⑫、小野⑦、小沢⑨、松山⑩、松本⑪、星野⑬、松石⑬、牧石⑭、竹内⑮、小林⑯

日差しがなく、冬を感じさせる寒さでしたが、みんなで力を合わせて樹高7m程のヒノキを間伐しました。倒れた瞬間、地響きと大きい音がして、「やったあ！」と歓声が上がりました。少し明るくなった森を眺め、森林整備の成果を確認できました。

予定通り、10時に子供達が葦尾根ふれあい広場に到着、班毎に道具置き場に移動して、ヘルメットなどを装着してから、森の中を10分程歩いて現場に向かいました。作業開始前に、森の学習(森の働き、間伐の意義)をして、インストラクターの指示の下、作業を開始しました。まず、倒す木を選木して、ロープを掛け、いよいよ大鋸を使って木に受け口、追い口を入



れます。子供達は、初めは思う様に大鋸が引けませんが、その内、慣れてきて上手に使えるようになりました。伐倒の準備が整ったら、みんなで力を合わせてロープを引きます。狙った方向に見事に倒れると、皆さんうれしそうでした。その後、倒した木の枝を払って、玉切り(適当な長さに木を切断)をして、作業を終えました。皆さん、良く頑張りました。

(記・写真 西出 健一⑫)



### ◆ 第15回 県民参加の森林づくり (除伐)

**日** 令和2年11月29日(日) 曇り  
**場** 秦野市千村 頭高山  
**参** 53名  
**市** 秦野市環境共生課 越塚様  
**財** 豊丸課長様、古舘様、大木様  
**看** 佃様  
**スタッフ** 千村共有地管理組合：石井会長様、森林組合連合会：菊池様、岡本様  
頭高山を愛する会：谷会長様、日立製作所：大橋様  
**イ** L 牧石⑭ 野牛⑧ 宮下⑩ 大原⑬ 星野⑬ 伊藤⑭ 木村⑭ 角石⑮ 末原⑮ 武田⑯

時折日差しが差し込むものの、ほぼ曇天でしたが、特別寒さを感じることもなく、活動を行うには適当な陽気でした。初心者からベテランの参加者に至る多くの一般参加者に加え、日立製作所の方々の参加により総勢53名での活動となりました。

参加者にはマスクの着用、検温を実施し、3密に配慮しバス5台に分乗し現地に向かいました。現地に到着後オリエンテーションを行い、活動場所までの移動中にはナラ枯れや立ち枯れした樹木を





何本も確認しながら進みました。作業内容は、モミジ等を除く幹の太さ3cm程度よりも細い灌木を除伐、特にアオキの植生が強く、ツタが絡む作業しにくい状況もありましたが、ソーシャルディスタンスへの配慮を徹底しながら活動し、作業前は見通しが悪かった場所が作業後には見通しが利くスッキリとした状態になりました。人数に適した作業量であったため、疲労感がない割には達成感が得られ、少数精鋭、活動範囲も限定されていたこともあり余裕を持って終了することができました。



また、作業活動中にはドローン撮影が行われ、現地を引き上げる前にも参加者を対象に写真と動画撮影も行われ良い記念となりました。

来年以降も引き続き森林整備が予定されるということで、本活動場所がますます整備されることを期待したいと思います。

(記 伊藤 健二⑭ 写真 牧石 稔⑭)

#### ◆ 神奈川トヨタ自動車株式会社 社員向けプリウス森木会

日 令和2年11月30日(月)、12月1日(火)  
10:00~15:00 両日とも晴

場 やどりき水源林

参 11月30日：20名(男性15名、女性3名、子供2名)

12月1日：22名(男性15名、女性2名、子供5名)

スタッフ 神奈川トヨタ自動車 社員4名

イ 11月30日 L内野⑨、山下⑪

12月1日 L古舘⑬、真貝⑩

例年のイベントはプリウス購入者のお客様が対象でしたが、今年は、社員に森の働き、強い森の作り方などを理解して頂くために、間伐が済んだばかりの周遊歩道Bコースを案内することになりました。事前に11月30日と12月1日の活動内容(午前午後とも)を各インストラク

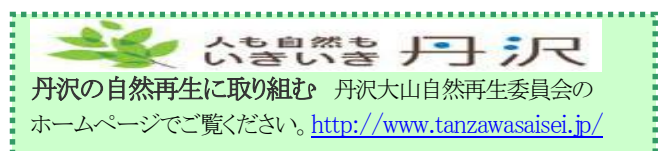
ター間で擦り合わせており、コース案内は、ほぼその通りに実行しましたので、12月1日の活動を中心に報告いたします。

12月1日の朝10時にやどりき水源林ゲート前に神奈川トヨタの社員がそれぞれ車に分乗して到着しました。現在、やどりき水源林広場は昨年の台風での被害の改修工事中でしたので、広場のすぐ脇でオリエンテーションと軽い体操を行い、その後、2班に分かれて、まず水源涵養実験装置の所に行き写真を見せながら水源涵養機能の話をして、それからBコース手前にある看板「水はどこから」で酒匂川水系の水道水供給の話をしました。

Bコースに入り、つぼみを抱えたミツマタの木やムササビが住んでいる樹洞を説明し、「プリウス森木会の森」に到着。トヨタのお客様は森の大地を足踏みして大喜び。すぐに看板の前で記念撮影をしました。ここを出発して木製の橋のすぐ下の透明度の高い水に感動し、間伐の跡がまだ新しい丸太を眺めて間伐の必要性を実感して頂きました。この時期、めばしい植物は殆ど無いのですが、カンアオイの葉の下でひっそりと咲く花やミヤマシキミの雄株のつぼみと雌株の赤い実をやどりき水源林の特徴として示すことが出来ました。

子供がいる班は小枝を集めることに熱中したり、途中でくたびれてお母さんに抱っこして貰ったりして他の班に遅れてしまいましたが、それでも怪我もなく出発点に戻ることが出来ました。最後に、お客様の大変有益だったという感想を頂き、案内人冥利に尽きる思いがしました。午後も1時10分から3時まで2班に分かれて同じ内容の案内を行いました。

(記 古舘 信生⑬)



## やどりき水源林ミニガイド

## 「森の案内人」

12月から2月までは、森の案内人はお休みです。

森の案内人はおりませんが、やどりき水源林を訪れることはできます。

なお、現在昨年の台風被害の復旧作業が進められており、立ち入り禁止の区域がありますので、訪問の際には、下記神奈川県ホームページにてご確認ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/yadoriki.html>

## 「やどりき水源林ニュース」

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

## ●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当: 井出恒夫)

## ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: [cherril@gk9.so-net.ne.jp](mailto:cherril@gk9.so-net.ne.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: [hisa-ato2@22.netyou.jp](mailto:hisa-ato2@22.netyou.jp)

原稿は随時受け付けています。

## 編集後記

★今年にはコロナでせわしく過ぎようとしていますが、我が家のユズが当たり年で、沢山の収穫に感謝し、友人に分けれることに喜び、香りに癒され、ユズのジュースを作りました。一本のユズがとても幸せにしてくれました。(笠原)

★今冬は、コロナの猛威を何とかやり過ぎすべく頭を縮こませて過ごそうと思っています。自然の移ろいは人間の騒動など歯牙にもかけず、いつも通りの景観を見せてくれてますが。なんとか、コロナ明けの春が一日も早く訪れますように。(吉田)

★京急三崎口駅から小網代の森まで歩きシーボニアへ、クラブハウスレストランから冬の青い海の向こうに江の島、

富士山と丹沢山塊を望みながらのんびりランチ、新型コロナ騒動を忘れる一時でした!(阿藤)

## ★『鬼滅の刃(きめつのやいば)』が大ブーム

小学生の森林間伐体験活動でノギリの付け方を生徒に尋ねると左腰につけるといふ。右利きは刀が抜きやすい。しかも何と左足を引いて抜いて作業をする。どうしてと尋ねたら左足を前に出していたら自分で自分の足を切ってしまうからと。知らず知らずのうちに安全知識を習得、すばらしい効果。そしてネズコという木(鬼滅の刃のヒロインが竈門禰豆子(ねずこ))があり今日間伐するヒノキの仲間だと言うと更に興味やる気アップをしたようだ。(松本)

★英国で新型コロナ変異種が猛威を振っています。これでは本格的なオリンピックは実現できないでしょうね。強硬派は「ASEAN 五輪」を、強引に「オリンピック」にするのでしょうか? 森林での活動が安全、安全。(竹内)

★新型コロナで気分がすっきりしないのは、いろいろな意見があふれていて、個人の意識レベルがまるで違うことへのストレスのせいと感じています。(黒川)

## 新年を迎えて 令和3年元旦

重苦しい気分の新年ですが、皆様どのようにお過ごしでしょうか?

若者は、それほどではないようですが、これだけコロナ感染防止を宣伝されると人混みには出れませんね。今年はどんな年になるか見通せませんが、少しでも明るい兆しが見えることを祈っています。



コロナ禍に在宅で拝む初日の出  
記 広報部 黒川 敏史

## 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から

12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保

笠原かずみ 加藤優美

阿藤寿孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫

武田昭典 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子